友だち遊びの一年間

友だち遊びの指導の実際——五才児

家塚志津世

・幼児の遊びについて

幼稚園における幼児の活動はすべて遊びといっていい。従って私たち教師は、この刹那的に興味のおもむくままに変化する目的のない活動に、少しずつ興味の持続をし、活動に目的をもたせ、また新しい遊びに発展させることをもくろみながら日々の保育をしているわけである。

もちろん幼児は入園するまでは、家庭において遊んでいる。しかし家庭での遊びは、自分一人の遊びであり、または特定の限られた範囲の友だちとの遊びである。幼稚園での遊びはその遊びに目的を持ち、教育的に配慮された種々の遊具の中で同年令の友だちが自由遊び、あるいは設定された遊び（自由遊びに対して）をなし、個——グループ——組——と活動の範囲もある時は個人で、ある時はグループで、また組でと、時に応じて人数も変化しながら友だち遊びを発展させていき、遊びの中から社会性とか、創造性とか、科学性とか、あらゆる人間生活の豊かな芽生えをのばしていこうとするのである。

・遊びの選択について

幼児の生活を適切に指導するためののぞましい遊びを選ぶ場合に、その標準となるものに次の三点が考えられる。

第一にそれらの遊び、即ち活動が明確な具体的なねらいを達成することができるようになっていること。

第二に幼児の心身の発達の実情にあった活動であること。年令

などの点から見て発達のちがいやらその他さまざまな事情にもとずく個人的な差にできるだけ合ったような活動をもたせること。

第三にそのような活動が「幼児の生活経験に即する」ようでありたいということである。のぞましいねらいに向かい心身の発達に応ずるものでありながら、その幼児の普通の日常生活とむりなくつながりその中に入りこむような活動であることが望ましい。

この三つの条件の他に、その園にある地域社会の実情や園そのものの実情に添うことはもちろんである。わざわざここにのべたのは、幼児の指導のために必要なのぞましい遊びの選択をする場合にこの三つは大切であると思うし、またこの遊びがさまざまな形態や種類をもって、多面的に幼児の遊びの経験として積み上げられるわけである。

・遊びの種類について

では、望ましい幼児の遊びを分類してみよう。遊びそのものをわければ幾百種類もあると思う。また分類のしかたもいろいろの面から幾通りにも考えられると思うが「友だち遊び」という意味からとり上げて次のようにわけてみる。

1ごっこ遊び

ごっこ遊びは遊びの中にいろいろの要素を含んだ遊びで幼児たちにとっては大好きな遊びである。ごく素朴なごっこ遊びから、複雑高次なごっこ遊びへと、遊び自体も非常に広がりをもっている。そしてこれは友だちが必要で、役割も多いほど遊びは発展し楽しさは増していく。ままごと遊び、乗物ごっこ、買いものごっこ、郵便ごっこ……など数えれば限りない。そしてそのごっこ遊びの中に社会性、言語性と幼児なりに身につけていくことができるのである。

2体育的な遊び

小学校などの体育とはちがうが、幼稚園では教育要領の健康の領域にでている項目の遊びが多い。「おにごっこ」などの集団遊び、なわとび、まりつき、ゲーム遊びなど…友だちがあるほどおもしろく人数が増すほど遊びは楽しくなってくる。ただ一人でできる鉄棒やマット遊びなども、仲間大勢で遊ぶのがやはり競争したりできておもしろい。

3科学的な遊び

幼児なりに科学的な見方、考え方、科学的な処理が遊びの中にみられるものを科学的な遊びとしてあげてみる。しゃぼん玉遊び、水車、水でっぽう、こま、磁石、紙ひこうき、あぶりだし…

…など、この他にもまだまだある。飼育栽培などもこの中へはいるだろう。ただこの科学的な遊びは、或程度教師がその都度環境を整えて材料を設定してやったり、友だち同志の他に教師も介入して遊びを豊かにしてやる必要もある場合がある。

4 創造的な遊び

構成とか、製作的な活動による遊びを指して砂場遊びとか、積木遊び、身辺の材料を使ってくふうしていろいろなものを創りだす活動をいうのである。これはさきの三つの遊びに比して、比較的一人でも楽しめる遊びもあるが、共同で製作などする場合はやはり友だち多勢と遊んだ方がいい。積木遊び、砂場遊びなども友だち多勢での楽しい遊びである。

この他にこの四つの遊び以外の範疇に入る遊びもたくさんあるだろう。しかし一応幼稚園などではこれらの遊びがいろいろと入り組み構成されて幼児たちの楽しい遊びとなっているのである。

・遊びの指導について

これらの遊びを幼稚園でどのように指導するか。これはすでに教育計画であって、この遊びをうまく配合し年間どれもとりこぼしなく経験することができ、その遊びのねらいを達成することができれば幼稚園教育の効果は充分といえるのではなかろうか。

ただこの遊びをじょうずに遊ぶために幼児にとっては友だちが必要である。標題にも友だち遊びの一年間—とあり、またその指導の実際ということであってみれば、どのように友だちとうまく遊ぶことができるかということを考えてみなければならない。

幼稚園での遊びには、はじめに述べたように「自由遊び」「設定された遊び」がある。

友だち遊びといった場合、二人以上の友だちあるいは何人かのグループ、あるいは組全体の友だち、といろいろ考えられるので、一人あるいは二人の遊びから出発する四月入園当初の頃より月を追って一年間をどのような友だち遊びがあり、教師はどのように指導したらよいか実際についてのべてみることにする。

この場合紙数の制限のため代表的なものをとり上げて、細かい遊びを省略する。

4 月

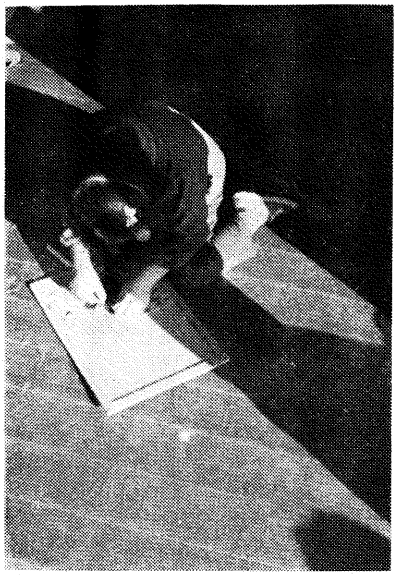
家庭から、生れてはじめて集団の生活へ踏みだす第一歩が入園である。家族構成の関係で割合に多くの人々とつき合ってきた幼児もあるが、中には全く親元をはなれてはじめて一人になるというものもいるだろう。教師は入園当初はこのいろいろな幼稚園の

生活に馴れない幼児たちの管理上、或程度一斉の行動をとらざるを得ない。しかしまたこの一斉の取扱いが幼児を固定したわく内にはめ込むと大変なことになる。

家庭での一人遊びからはじめて集団での遊びに入ったこの月の一番大切なことは「家庭から園への移行の月である」ということの確認である。そうすれば幼児は一人で本を読むもの、一人で小さい積木で遊ぶもの、と家庭でしていたように一人で自己を発現するような遊びをさせながら、園にある遊具の中から遊びを見出していくものなどいろいろでてくるだろう。また遊びをしらないものには教師が相手になって遊んでやるがよい。四月の幼児の友だちは先ず教師であるかも知れない。また家庭の近くの仲良しの子と二人で遊ぶ子もいるだろう。幼稚園の生活に大分馴れてきたら、園庭のブランコ、すべり台、遊動円木など、いろいろの遊具での遊び方を教師は幼児とともに遊びながら知らせなければならない。もちろんその遊びの中で、順番を待つこと、後片づけをすることなども一しょに知らせておくことが必要である。

四月という月は、幼児が期待していた幼稚園の生活が楽しいものであるかどうか、という大切な気持ちを幼児が抱く月であるので、一層教師としては友だち遊びの指導を細心に子どもの性格、生育環境などを観察して指導することが特に大切であると思う。

4・5 月頃の一人遊び



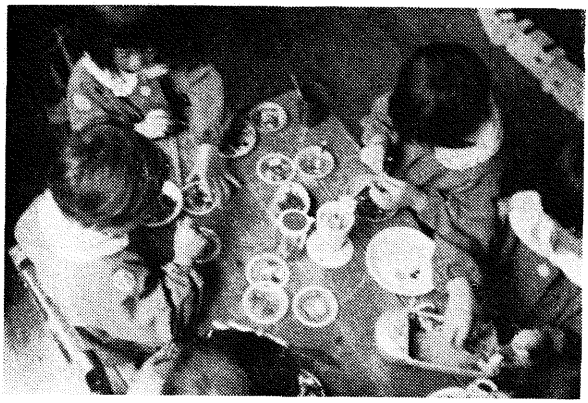
4・5 月頃の二人遊び

また友だちのない子にその子に合った子どもを友だちとして選んでやることも四月の教師の大切な仕事である。

5月、6月

入園して一と月もたってくると、幼児の状態は四月に比し大いに変ってくる。四月にいろいろの遊びを知って、幼児は五月になると自信をもって遊びを選択しはじめる。そして幼稚園で新しくできた友だちと一しょに二人遊び、三人遊びが始まる。まだ自分の家の近所の子、あるいは一緒に通園する友だちなどとの遊びも多い。友だちの名前もはっきりわからぬので、教師の与えたグループの友だち以外はまだ積極的な友だち遊びはあまりない。しかし園生活に大分馴れてきて、集団生活も幾分わかってきて、教師が自分の側を離れても少しも困らないで遊びを続けることができるようになる者もある。また一方まだよく遊べないものもいて、教師の前後左右にくっついている者もいる。

6 月頃のグループ遊び



この月は若葉の美しい頃となり、季節的にも一年中で一番さわやかな季節であるので、外遊びをするのに好季節である。従ってやはり五月は、教師を中心とした友だち遊びということが考えられる。教師が庭へでて、組のもの全員で簡単な集団あそびをしたりして、友だち同志の意識を深めていくことが必要であろう。

六月も入り、半ばをすぎると生活全体が軌道に乗ってくる。此の頃になると幼児たちは登園してくるとともに何人かのグループで遊びの場作りがはじまる。能力の同じようなものがいつしか集ま

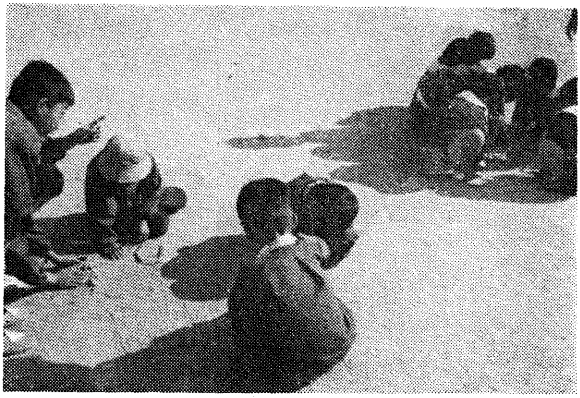
って気の合ったグループを作り、積木をだして遊戯室で大きな家が作られている。ままごと遊びがはじまっている。ごちそうができると友だちをよんできてお客さまごっこになる。こうなるとも教師は、幼児の遊びがスムーズに発展するよう、あらゆる準備をなし、適切に環境をととのえてやることが大きな仕事である。教師が準備してやる材料によって幼児の遊びは自然に発展していく。だから教師は単元とか子どもの生活を考えてその用意をしてやることが大切なことである。

また梅雨期になって室内遊びが多くなるが、この頃になると幼児の個性などもややはっきりし、友だちもできたりするが、けんかなども目立ってくるようになる。けんかは幼児の友だち遊びとはなすことはできないが、これも幼児同志でなるべく解決するよう教師は指導すべきである。

7 月

一学期も終りになって幼稚園では水遊びがさかんになってくる。しゃぼん玉遊び、プール遊び…などによって幼児同志は益々友だち意識が発達してくる。プール遊びなどは特に裸になって遊ぶためか、この頃から服のボタンをはずし合ったりタオルで背中をふいてやったりお互いに協力しあうようになる。製作などの時にも水族館の魚を二人で共同で作ったりお互いに一つの仕事を協力する。

7 月頃の友だちとの協力

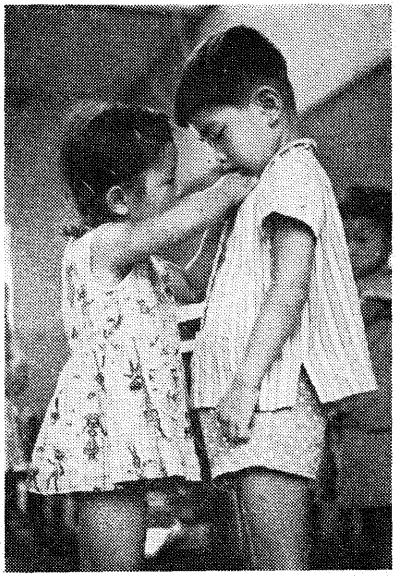


またでき上ったあとの後片づけなどの際も、自分のものをきちんと片づけられるものと、そうでないものとあるが、早く片づいたものがせっせと友だちの片づけなどをするようになる。

そして幼児の遊びも今日の遊びが今日だけに終るのでなく、また明日このつづきをしようねと次へ流れていくようになる。教師はこうした友だち関係の高まりを捉えて、後から見まもりながらついていけばよい。

七月はもう生活のリズムができてきて、教師はアドバイスはするけれど、遊びは子どもの友だち同志で流れていくようにするのが七月の教師の指導であると思う。

7 月頃の友だちとの協力



9月、10月

夏の休みがすんでででてきた幼児達は数日、ちょっと活動がとだえる。しかしすぐ活動を開始する。休みの生活経験からか、かえってその活動は多面性をもってくる。久しく会わなかった友だちとの遊びもまた進められていく。九、十月は園の一大行事ともいえる運動会とか、秋の遠足などがあるが、そうした行事などに対しても、幼児らはすこぶる協力的にいやむしろ自主的に自分ででこのようにすればよいと相談しながら準備が進められていく。こうしたことは一学期には決してみられなかった現象であり、ことにこの頃になるとリーダー的な存在の幼児もでてきて、益々自主的な遊びになってくる。またこの頃は外遊びも盛んになってくる。ことに鉄棒とかはん登棒とかが大いに盛んになって、うまくできる子も、できない子もズラリと並んで練習がはじまってくる。教師はひょいと尻をもち上げてやったり、鉄棒の手の握り方を示したりすればよい。またルールのある遊びもはじまって、陣とりや野球のまねなども始まる。この頃の友だち遊びは大体同じような能力の幼児が集まっている。また男の子と女の子の遊びも自然とわかれてくる。また遊びにくふうをこらしたり意欲を示す子と、教師と一しょなら遊ぶことはするが、あまり遊びに興味を示さない、意欲の少ないとでもいうか、そういう幼児とがはっきりわかれてくる。教師としてはそうした幼児の指導を考えねばならない。時には意欲的なグループの中へ教師も一しょに入って仲間にしてもらったり、また同じような能力とか程度の者同志で遊びを考えてやり、教師がその中で一しょに遊ぶとか、教師が友だちになることがやはり大切であろう。またその原因をよく調べることも大切である。ちょっとした原因を除いてやったら活発に遊びだした幼児もいる。

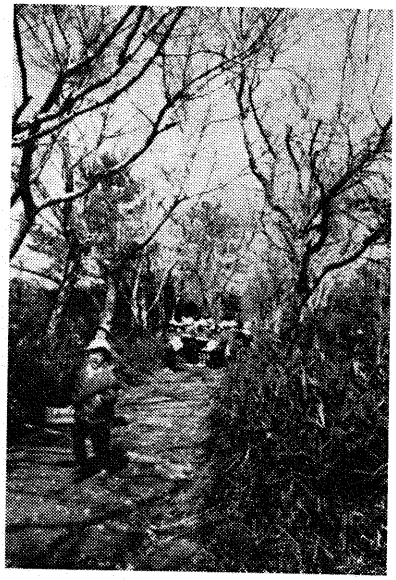
11月、12月

鉄　　棒

この頃になると幼児の言語生活はとても発達してくる。遊びもそうした面をのばす「ごっこ遊び」などの指導が必要となってくる。園外保育などで落葉や木の実を拾ったり、友だちとその落葉や木の実でいろいろの製作をしたり、園外保育の途中隣の友だちと手をつないで歩きながら、目にうつる風物の話をいろいろ話したり、疑問などあればただしたり教師も一しょに話合ってやらねばならぬ。こうした時は幼児はお互いに園内では求められない友だち関係を深めていけるのである。

また年末の町の様子をお店ごっこにして、買ったり売ったりする役をきめ、お店の品物などを友だちと一しょにつくったりする

11月　園外保育



ことも大切である。このお店ごっこなどは、組を解いて全園児で行なうようにすると、自分の組の友だちだけでなく年少組とも他の組とも親しくなり、非常に有意義である。

1月、2月、3月

三学期を迎えると、冬休みの間にお正月という区切りがあったためか、急に幼児の心身が成長してきたようである。お正月遊びのかるたとりや双六遊びなど、数人のグループで楽しく遊んでいる。もうすぐ一年生という期待のためか幼児の胸はふくらんでくる。そのためか幼稚園での遊びは、知的なものが多くなり、文字や数などへの関心も高まってくる。

三月のおわかれ会も近くなると、そのけいこが始まるが、二学期の終り頃に話をきいたり劇遊びなどしたことの経験が、役割をきめたり相談などかなりじょうずになり自発的に参加できるようになってくる。役割についてもはっきりした意識をもって、練習の時も助言をしたり、友だちのせりふをいってあげたり、お互いに注意し合ったりできるようになる。入園の時はやっとお話できた幼児たちが、お友だち同志はっきり自分の意志を伝え合っているのをみる教師の胸に、一年の月日が、幼児の友だちあそびの一年間のおもいでが去来するのは当然であろう。

一人で入園してきた幼児が友だちを作り、その友だちといろいろの遊びを通して、仲よく園生活ができるようになったとすれば、それは幼稚園教育の大きな成果である。

（松江市立雑賀幼稚園）

2・3月　文字や数などへの関心